

〈作成・和田喜夫〉

1960年(昭和35年)

・4月演出者の地位向上、相互交流、演劇事業の実施を目的として創立する。

初代理事長に村山知義、

副理事長に千田是也、成井市郎。

事務局長に松尾哲次を選出。

※後に事務局長は木村光一に交代。

その後一時的に休止状態になる。



村山知義
プロフィール

1974年(昭和49年)

・3月：日本演出者協会再発足総会を開く。

・理事長・村山知義、事務局長を西木一夫。

(東京小劇場に事務局を置く)

・6月：会報第一号発行する。

・9月：日本芸能実演家団体協議会に加盟。

1975年(昭和50年)

・「演出契約ならびに演出料についての規定」を設ける。

・事務局長にふじたあさや着任。

・事務局を新劇団協議会に移転。

事務作業を協議会に委託。

1976年(昭和51年)

・八田元夫副理事長死去。

1977年(昭和52年)

・第2代理事長に千田是也就任。

副理事長に宇野重吉。



千田是也
プロフィール

・合同演劇講座スタート

1978年(昭和53年)

・千田是也を学長に「夏の演劇大学」スタートする。

(長野県清里・清泉寮)

1982年(昭和57年)

・関西支部発足。

1984年(昭和59年)

・演劇大学を仙台で開催 特別ゲスト：岡田嘉子

1986年(昭和61年)

・友好訪中団を組織

香港・広州・上海・北京を訪問。

1987年(昭和62年)

・「夏の演劇大学」“劇体験・清里の夏”開催。

(清里清泉寮)

・副理事長：田中千禾夫、飯澤匡

1988年(昭和63年)

・初めて選挙による役員選出を行う。

・千田是也理事長を選出。

事務局長ふじたあさやは継続

※アングラの演劇人にも

入会してもらう方針となる。



※6月に国際交流基金の『大韓民国演劇専門家グループ招聘計画』により韓国の演劇人が来日。劇団サヌリム・林英雄(イム・ヨンウン)が団長 許榮吉(ホ・ヨンギル)、李炳勳(イ・ビョンフン)、劇団79代表 奇國叙(キ・グクソ)、朴炳棹(パク・ビョンド)、洪賛植(ホン・チャンシク)、ヨ 韓国本部代表：金義卿(キム・ウィギョン)など10名が来日し交流が始まる。

※日本演出者協会からは、瓜生正美、ふじたあさや、中村哮夫、関矢幸雄、ほか参加

1990年(平成2年)

・アングラの演出家として流山児祥が入会。

※アングラ、小劇場の演出家が入会を始める。新劇とアングラの確執はしばらく続く。

1992年(平成4年)

・「演劇人国際交流 92 日韓演出家会議」を開催。

(東京芸術劇場)

韓国との交流の第一歩を踏み出す事業として韓国演劇協会と共催して実現した。

〈実行委員・ふじたあさや、

貝山武久、流山兎祥〉

※演出家：林英雄(イム・ヨン

ウン)、呉泰錫(オ・テソク)、

鄭鎮守(チヨン・ジンス)、孫

振策(ソ・ジンチエク)、李潤

澤(イ・ユンテク)。

評論家：金文煥(キム・ムナン)。

俳 優：金星女(キム・ソンニヨ)、韓明求(ハン・

ミヨング)ほか来日。

観客として金亜羅(キム・アラ)舞天も来日。

(助成：文化庁※助成金額が予定よりも低く
大幅な赤字となる)

・ 11月北京の小劇場を評論家協会と共に10名で訪問。

1993年(平成5年)

・ 千田是也理事長、ふじたあさや副理事長、

貝山武久事務局長。

※事務局次長・流山兎祥、事務局員・坂手洋二

※会員を増やす(300名となる)

1994年(平成6年)

・ 5月：「94年春・演出家の集い」開催。

会費5千円で実施。

(シアターX)

※これが「演出家の集い」の第1回目。



・ 8月：「演劇大学」再開。

〈第8回 松本演劇フェスティバル〉に併せて。

講師：生田萬、香川良成、中村孝夫、原田一樹、野村耕介

他

(松本市民会館、あがたの森公園講堂)

・ 「日韓演劇人会議」開催。

・ 12月千田是也の死去に伴い、任期終了まで

阿部広次が理事長代行。

1995年(平成7年)

・ 1月：阪神大震災により被災した関西支部会員への

義捐金のカンパを募る。

〈会員99名より54万3千円が集まり関西支部へ

送る〉

・ 1月：「日中演劇フォーラム・日中演出家会議」

開催。(グローブ座)

北京人民芸術劇院『ハムレット』(演出：林兆華)

招聘上演 助成：日本芸術文化振興会

・ ふじたあさやを第3代理事長に選出。

事務局長・貝山武久。

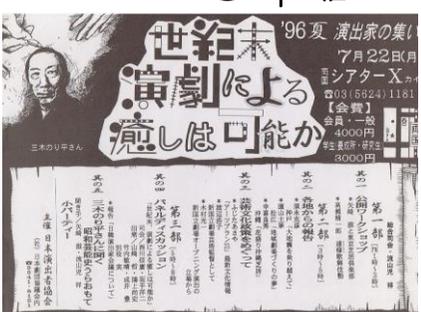
1996年(平成8年)

・ 第2回

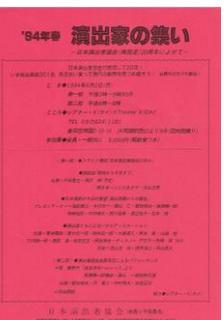
「'96夏・演出家の集い」開催

特別ゲスト：三木のり平

(於：シアターX)



・ 11月：「日韓演劇人会議」開催。(グローブ座)



・ 12月：愛知支部発足

1997年(平成9年)

- ・第4代理事長に成井市郎選出。事務局長に和田喜夫が着任。

・会員向けに「告知版」を毎月出す。

〈理事会報告、観劇案内、エッセーなど〉

・「韓日演劇人会議」開催。(ソウル)

・ふじたあさや提案により、飯田市の助成で5年計画の「演劇大学 in 飯田」が始まる。

※これが大きな契機となり、全国からの開催依頼が届き始め、文化庁に助成申請し、2000年より毎年各地での開催を始める。

1998年(平成10年)

・「東南アジア演劇研究研修セミナー」開催。

(世田谷パブリックシアター)

※東南アジア5か国の演出家を

招聘(インドネシア・フィリピン・

タイ・シンガポール・マレーシア)〈

オブザーバー3か国(中国・韓国

・オーストラリア)が自費で参加

され、「戦争」をテーマに議論

し、ワークショップを行なった。

群馬県川場村で合宿も実施。

〈助成：文化庁500万円〉

※世田谷パブリック・シアターの佐藤信芸術監督が全面協力。

・協会事務所を新宿御苑に移し独立。

瓜生正美の青年劇場に近い場所

として「新宿ダイカンプラザ」

というマンションの10帖の部

屋を借りる。

全国の会員に移転の費用のカン

パをお願いした。

全ての作業を独自で開始する。

(事務局員1名と事務局長で作業を行う)



・「日韓演劇人会議」を開催。(グループ座)

〈助成：文化庁〉

※協会以外のゲストに岸田理生、平田オリザ

この年は事務所移転という大きな出来事とともに、二

つの国際交流事業を推進した。瓜生正美、和田喜夫で

資金繰りに奔走する年となった。

1999年(平成11年)

・「国際演劇交流セミナー」を開始する。

カナダ特集が第1回。年間で14企画を実施。

※文化庁の芸術創造基盤

整備事業の第1回目として開催。

予算は事務局長が立て替え、

各事業後に文化庁から支払われ

る形でスタートした。



カナダ特集(明治学院)

※初代の国際部部长は貝山武久が務める。

・「韓日演劇人会議」開催。(ソウル大学路花樹会館)

※この会議において日韓演劇交流を拡大するために

両国の複数の演劇関係団体による交流を和田喜夫が

提案。

日本側では7団体による《日韓演劇交流センター》

が生まれる。(この会議は支部と理事から選ばれた

メンバーが渡航費を自己負担で参加していた)

・事務局員に吉村八月。

2000年(平成12年)

・「日韓演劇人会議」開催。

・「国際演劇交流セミナー」9か国の開催。

2001年(平成13年)

・第5代理事長に瓜生正美を選出。

事務局長・和田喜夫

・「若手演出家コンクール」を開始する。

(下北沢「劇」小劇場)

※流山児副理事長が本多劇場と交渉して実現。

・「演劇大学」2都市開催

「国際演劇交流セミナー」6か国の開催

・文化庁より育成事業の依頼を受ける(流山児副理
長、和田事務局長)

※国際演劇交流、演劇大学、若手演出家コンクールを

提案

2002年(平成14年)

・「日韓演劇人会議」開催。

・日韓演劇交流センターと韓日演劇交流協議会の交流開始。(杉並会館)

・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」実施。

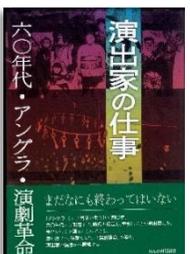
2003年(平成15年)

・第6代理事長に福田善之を選出。

事務局長・和田喜夫

・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」実施。

・『演出家の仕事 60年代・アングラ・演劇革命』出版。



2004年(平成16年)

・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」を実施。

2005年(平成17年)

・優秀指導者特別指導事業を実施 (講師：ロジャー・リーズ)青井陽治が企画

・協会事務所を芸能花伝舎に移す。事務局員に斉藤由夏。

・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」を実施。

2006年(平成18年)

・優秀指導者特別指導事業を実施 (講師：セルゲイ・チエルカフスキー)

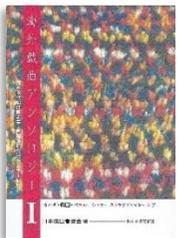
・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」を実施。

2007年(平成19年)

・第7代理事長に和田喜夫を選出。事務局長に大西一郎が着任。

・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」を実施。

・『演出家の仕事 戦後新劇』『海外戯曲アンソロジー』出版。



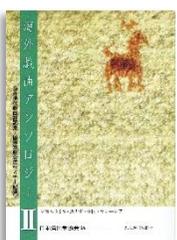
2008年(平成20年)

・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」を実施。

・『海外戯曲アンソロジーII』出版。

・協会誌『D』を創刊する。

広報部部長の篠崎光正の提案で、千田是也の筆による「D」をロゴとして使う。



2009年(平成21年)

・6月1〜30日

第1回《日韓演劇フェスティバル》開催。

池袋あうるすぽっとで1か月。

※韓国演劇演出家協会との共催。

平成21年度文化庁国際芸術交流支援事業(国際共同)

「日本・韓国・在日」の3者の交流を協会の基本方針とする。劇評家・大笹吉雄氏、及び副理事長・宮田慶子と豊島区との繋がりで、あうるすぽっとで実現した。1か月の開催で、のべ7千人の参加者があった。

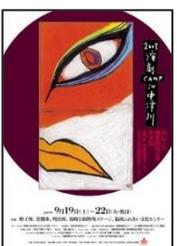


・9月19〜22日

『演劇CAMP in 中津川』を始める。

全国の会員を誘う。

※伝統と現代、社会と繋がる国際演劇フェスティバルを目標として、中津川教育委員会と連携し、5年計画で始めた。



- ・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」を実施。
- ・「アジア演劇祭 in 上海」参加(関西ブロック)
- ・「演出家の仕事八十年代・小劇場演劇の展開」出版
- ・『海外戯曲アンソロジーIII』出版



2010年(平成22年)

- ・「日本の近代戯曲研修セミナー」を開始する。
- ・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」を実施。

2011年(平成23年)

- ・6月 東日本大震災の支援事業としてフェニックス・プロジェクトを開始。
- ※笹塚ファクトリーとの共催で実施。



朗読劇『物理学者たち』、非戦を選ぶ演劇人の会有志による『それゆけ安全マン！？』、レントゲン・チエルノブイリ、フクシマ』など

※7月、8月にも実施。毎回、東北の演劇人を招聘し、報道されない報告をお願いする。

- ・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」を実施。
- ・9月 第2回 演劇CAMP in 中津川を開催 フェニックス・プロジェクトとして宮城県の SENDAI 座『十二人の怒れる男』を常盤座で招聘公演



★この年は協会設立50周年記念事業として「演出者の集い」を本多劇場で企画したが、震災のため直前で中止とした。

2012年(平成24年)

- ・1月、2月 第2回『日韓演劇フェスティバル』を東京・大阪・福岡で開催。
- ※『トンマツコルへようこそ』を3都市で公演。
- 各会場で独自の内容を企画。



- 大阪の在日の劇団、劇団タルオルムが済州島よりマダン劇団ノリペハルラサンを招聘。
- ・3月フェニックス・プロジェクト vol.5 を実施する。
 - 〈10、11日・笹塚ファクトリー〉

- 〈あさか開成高校、相馬高校、新宿高校を招聘し公演・シンポジウムを実施。〉
- ・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」を実施。



- ・演出家の仕事④『海を越えた演出家たち』出版。
- ふじたあさや、村井健、佐々木治」

- ・10月 演劇CAMP in 中津川を開催



2013年(平成25年)

- ・6月より一般社団法人となる。
- ・フェニックス・プロジェクト vol.6 を開催。
- ・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」を実施。
- ・演劇CAMP in 中津川の最終回5年目を開催。



・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」を実施。

2018年(平成30年)

・2月フェニックス・プロジェクト vol. 8

『あの日、私たちは小学生でした』開催。

※福島の高校生による公演、シンポジウムを実施

・新たに**社会包摂部**を立ち上げる。

※社会的役割を推進するために全国の会員にアンケートをとって始めた。

・教育出版部で『演劇入門』の話し合いを始める。

・協会員向けDMで「言葉の広場」を始める。

・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家

コンクール」、「日本の戯曲研修セミナー」を実施。

(演劇大学4都市開催 山形、函館、出雲、大阪)

2019年(平成31年・令和元年)

・3月フェニックス・プロジェクト vol. 9

『3.11を風化させない』実施

・8月流山児祥を理事長として再選。和田喜夫が事務局長を継続。

※副事務局長に柏木俊彦、大西一郎が着任。

・愛知トリエンナーレへの文化庁の助成金取り下げに抗議声明文を出す。

・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家

コンクール」、「日本の戯曲研修セミナー」を実施。

2020年(令和2年)

・社会包摂部の事業が文化庁に採択される。

『社会と知的障がい者施設を演劇でつなぎ

地域のプラットフォームをつくる事業』

・3月「若手演出家コンクール最終審査会」を無観客上演・審査とした。

・4月フェニックス・プロジェクト『ファミリーツリー』延期。

・4月東京での自主事業『演出のコツとツボ』延期。

・新型コロナウイルスに感染拡大への対策として、理事会をオンラインシステムZOOMで行うこととした。

・5月『演劇緊急支援プロジェクト』と『We need culture』と「文化芸術復興基金」を要請する。補正予算として500億円の継続支援事業が実施された。※「文化芸術活動の継続支援事業(1次〜3次)」申請希望者の身元確認として「確認番号」の発行を委託される。

・10月政府による「日本学術会議」人事について経緯を明らかにすることを求める声明へ賛同。

・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」を新型コロナウイルス感染症対策を講じながらオンラインなどで実施。

2021年(令和3年)

・2月 EPADの委託によるEラーニング講座「舞台芸術スタッフの仕事」を教育出版部が作成。

無料公開する。

・8月 総会で流山児祥を理事長に再選。

副理事長にシライケイタ、宮田慶子

常務理事に、鶴山仁、大西一郎、小林七緒、西沢栄治、日澤雄介、わかぎあふ

事務局長に和田喜夫 副事務局長に柏木俊彦、秋葉舞滝子の2人体制とする。

・9月 AEFの助成を得てフェニックス・プロジェクトを3期に渡り実施。

—10年/今、この地に生きる—

〈1期〉8月28日(土)、29日(日)

エル・パーク仙台

『ファミリーツリー』

『みんなここに居ればいい』

〜あの日からのみちのく怪談〜

〈2期〉11月5日(金)、6日(土)、7日(日)

せんだいメディアテーク

—福島特集—

福島産演劇×トーキョー産演劇

×写真×クロストーク

『フクシマを通して見る今と未来』

中筋純 写真展示「流転」

『オキユパイドフクシマ』

風煉ダンス朗読劇&ミニライブ

クロストーク1、2

〈3期〉12月17日(金)、18日(土)、19日(日)

せんだい演劇工房 10—BOX

東北6県の若手の戯曲リーディング

・11月『社会と知的障がい者施設を演劇でつなぎ地域のプラットフォームをつくる事業』2020年に予定し、延期とした『奥多摩しいたけ物語』を利用者全員で上演。

- ・12月 オンラインで「演出者の集い」、「忘年会」を実施。
- ・「演劇大学」、「国際演劇交流セミナー」、「若手演出家コンクール」を新型コロナウイルス感染症対策を講じながらオンラインなどで実施。

2022年(令和4年)

- ・3月ロシア軍によるウクライナ侵攻に対する反対声明
国際演劇評論家協会日本センター(JCCT)「ロシア軍によるウクライナ侵攻に際して」への賛同表明
- ・楽しくつながるプロジェクト2021
『奥多摩しいたけ物語』小公演映像配信
- ・日本の戯曲研修部アーカイブをWebで無料公開
- ・教育出版部により『はじめての演劇入門』
- ・事務局・上田郁子さんが退職。